

## I:著書

上田薫先生の著書、執筆書籍。先生の単著、共著、編、共編、監修、協力、指導等の書籍。先生の講話・口述、先生への聞き書きの書籍も含む。(中分類 A～D ) 及び、他著へ先生が論文、序、追悼、挨拶などの執筆を行なった書籍。(中分類 E～H )

## II:思想形成

上田薫先生の思想形成に関わったと思われる書籍。先生が生前に自宅応接室の書棚の一郭に大事に保管していた書籍で、そのままそっくり配架されている。内容は西田哲学、先達の哲学書、並びに先輩・同僚・友人等の哲学・教育関係の書籍。戦前から戦争直後にかけてのもので、若かりし先生の思想形成に寄与したと推定される。(中分類 I～M ) 他に上田薫の経歴や論争について書かれた書籍。(中分類 N )

## III:教育関係

上田薫先生のライフワークとなった教育に関わる仕事を通じて入手、贈呈された書籍。哲学・思想関係も含む。恩師・先輩・友人・同僚・先生の下で育った院生・教育実践者等の方々の書籍、及び教育史や専門教育分野の書籍などである。その他一般の教育・哲学・思想関連の書籍や、恩師等の全集も含まれる。本分類の書籍は、先生の自宅書庫に収蔵されていたもので、先生が東京に戻られてからのものが多い。数が多く多様であり、市川博先生が遺族の意向をお聞きしながら厳選された。(中分類 O～V )

## IV:短歌・俳句・詩・随筆

上田薫先生が晩年に勤しんだ短歌・俳句・詩・随筆に関する書籍。先生が入手し自宅書庫に収蔵していたものである。市川博先生に厳選いただいた。(中分類 W ) 先生の両親が所蔵していたと思われる戦前の短歌等の書籍・全集は、大分類「IX愛読書」の中分類「古書」に分類されている。

## V:考える子ども

上田薫先生が発行人の一人であり、創刊号から亡くなる直前までほとんどの号に執筆を続けた「社会科の初志をつらぬく会」の機関誌。「考える子ども」の創刊号より先生の追悼号となった 397 号までの全号と、夏季特集号全号が収蔵されている。またその後発行された「考える子ども」の先生続追悼・偲ぶ会特集号や、「社会科の初志をつらぬく会」関連資料(保存ケース入り)なども収蔵されている。

## VI:薫執筆冊子索引(薫執筆雑誌の一部)、VII:薫執筆雑誌

上田薫先生の執筆が掲載されている刊行された雑誌・冊子(上記考える子どもを除く)。先生の執筆の無い教育関係の雑誌・冊子についても自宅に膨大な蔵書があったが、本文庫への収蔵は先生の執筆のあるものに厳選した。VIは執筆した雑誌・冊子数の比較的少ないもので、目録では雑誌・冊子の表題により「あいうえお」順で並べている。VIIは執筆した雑誌・冊子数の比較的多いもので、目録では雑誌・冊子ごとに分類している。雑誌・冊子には、専門誌・一般誌・サークル誌・学会誌・学会予稿集・大学研究紀要・会報・教科書・講演 DVD 集などを含む。

## VIII:資料

「小分類:資1」は、上田薫先生が文部省在籍時(昭和 22 年 9 月～昭和 26 年 8 月)に収集した教育関係の雑誌(先生の執筆の無いもの)・資料(保存ケース入り)、並びにその間に文部省が発行した書籍・教科書等である。文部省発行書籍については、学習指導要領など先生退職後発行されたものも一部含む。

「小分類:資2」は、上田薫先生が生涯を通じて行なった教育活動で、刊行されていない資料を保存ケースに収蔵した。内容はプリント版などの講演録・声明文・校歌、国会や祝賀会等のイベントに関する資料、講義ノート・メモ・自筆原稿・色紙(コピー)などの自筆資料、新聞への執筆・インタビューや先生に関する報道記事などである。

「小分類:資3」は、上田薫先生が生涯を通じて行なった教育活動で、刊行されていない音声・画像の記録で、保存ケースに収蔵した。内容は講演録、講義録、祝賀会等のイベント、テレビ出演などである。アナログ媒体(オープンリール、カセットテープ、VHSビデオ)であったものは、全てCD-ROMにデジタル変換されている。CD-ROM、DVDへ収録したのものも含む。

## IX:愛読書

上田薫先生は哲学・教育や詩歌関連以外にも、大量の蔵書を残した。特に文庫本は二千冊以上に及び、講演旅行等の合間、病院の待ち時間にも欠かせなかった。またクラシックレコードもLP千枚近くを収集している。他にもスポーツ、美術、文学、歴史、紀行、様々な事典類などの蔵書も多い。それらは書庫か、自宅の職場としていた寝室近辺に自身の著書などとともに置いていた。本文庫では、先生の人となりを窺うため、最近まで親しんでいた文庫本、スポーツ、美術、音楽の書籍のごく一部を愛読書の例として収蔵した。

また自宅に大正・戦前から戦争直後にかけての文学・哲学・詩歌・文庫本などを収めた古書棚があり、その一部を愛読書として収蔵した。古書棚の書籍は、先生が両親から受け継いだ書籍の中から選抜したり、若かりし頃に先生が入手し、愛読していたと想定される。古書の中から哲学・短歌に関する全集・書籍を「小分類:古書」として、また戦争直後に発行されたアテネ文庫の全部及び戦前の岩波文庫の一部を「小分類:愛読書」の文庫の一部として収蔵した。

## X:その他

円空仏は、「考える子ども」の表紙を長らく担当されている酒井賢氏(立教大学時代の内地留学生)の作品で、酒井氏より先生に寄贈され、40年にわたり上田薫先生宅の応接間に飾られ、先生の教育活動を見守ってきた。薫文庫開設にあたり、文庫の書籍とともに遺族から寄贈された。

写真アルバムは、上田薫先生の生涯を、仕事関係をメインに俯瞰できる写真集であり、市川博先生が遺族の意向をお聞きしながら選別監修したものを基にして、高橋美恵子先生と堀内千津子先生が作成された。写真は鎌田和宏先生により、上田家所蔵アルバムから撮影された。上田薫文庫利用者が自由に閲覧できる。なおアルバム写真を含む鎌田先生撮影の画像データは、保存用CDに収録されている。